

昭和45(1970)年2月27日

# 待望の「青年の家」

## 五月着工、年内に誕生

### ミーティング室も設ける

**東山** 東山区にも、働く青少年待望の「青年の家」が区役所西側に建設されることになった。五月着工の予定で、年内にも市内五番目の青年の家として誕生する。

り、サークル活動をする、いこいの場、親子の場で、現在、市内には中京、北(西陣)、伏見、南の各區にあり、それぞれ、働く青年男女に活用されている。

東山区は、清水焼、京扇子などの伝統産業の産地であり、また化

学、金属関係の企業も多く、これらの職場で働く十五歳から二十五歳までの青少年は二万人もいる。このように、区内には働く青少年は多いが、既設の名家を利用するには距離的に不便なため、早くか積設置が望まれていた。

建設場所は、区役所西側の市有地で、鉄筋三階建て、延べ建て面積九百平方㍍。他の青年の家と同じく、ホール、音楽室、図書室、和室、料理室、体育室が設けられ

るほか、アコードィオン・カーテンで二室に分けるミーティング室もできるのが特徴。また、現在、区役所職員用の食堂、理髪室を取り扱って、青年の家内に併設し、

両方が利用できるようになる。このほか、区役所との間のあき地は、昼間は駐車場とし、夜間はバレー、庭球を楽しめるよう照明設備付きのコートにする。

総工費は七千万円で、うち国庫補助七百五十万円、地元負担一千万円で残りが市費。地元負担分については、区内の企業主らで『青年の家建設協力会』を組織、募金に当たることになっており、近く発足の予定。